

なるほどのじ



学校教育担当
キャラクター
甲斐善之助

西部教育局からのお役立ち情報 今月のトピック紹介版

10月号



全国学力・学習状況調査結果から考える
「知識・技能」に関する指導改善のポイント！

組織で支える「絆づくり」と「居場所づくり」
一人ひとりを大切にするために

特別支援教育ほっと通信
令和9年度教科書需要数報告事前審査会
から見えてきたこと

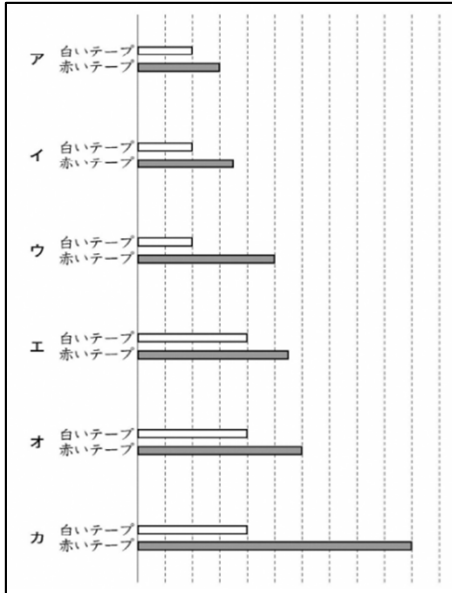


今年度の全国学力・学習状況調査の結果において課題が見られた小学校算数「知識・技能」の問題に関する指導改善のポイントについて御紹介します。今後の指導の参考にしてください。

令和8年度全国学力・学習状況調査問題

2

(4) 赤いテープの長さが、白いテープの長さの1.5倍になっている図はどれですか。
下のアからカまでのの中から2つ選んで、その記号を書きましょう。



正答 アとオ

誤答例 イとエ、
ウとカ など

正答率

全国	34.2%
鳥取県	29.7% (-4.5)

解答類型の結果より…

◆イとエと解答

白いテープの1.5倍にあたる長さを、
白いテープより1.5目盛り分長い長さ
であると誤って捉えている。

◆ウとカと解答

白いテープの1.5倍にあたる長さを、
白いテープの長さとしてそれを1.5倍した
長さを合わせた長さであると誤って
捉えている。

<解答類型の結果から見える課題>

示された基準量と割合から、比較量を捉えることに課題がある。



【授業改善のポイントと活動例】

2つの数量の関係を考察する。

赤のテープの1.5倍の長さになっている
テープはどれかな。

1.5目盛り分長いので、Cじゃないかな。

Dだと思います。

二つの答えが出ましたね。
では、赤のテープの2倍の長さのテープはどれかな。

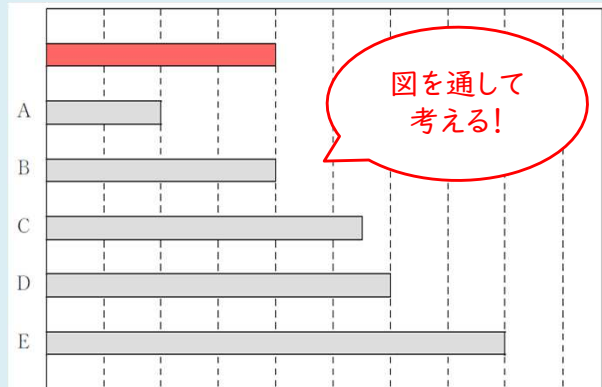
2目盛り分長いので、Dだと思います。

2倍は赤のテープの長さの二つ分だから、Eだと思います。

2目盛り分長いテープと2倍の長さのテープは違うのですね。

倍で考えるときは赤の長さを1とみて考えるのですね。

赤のテープの長さを1とみると、1.5倍の長さのテープはDですね。



活動のポイント

割合が整数で表される簡単な場合について、
「2倍」と「2目盛り分多い」が違う意味で
あることを捉えることを通して、倍の意味を
理解できるようにすることが大切です。



指導のポイント

基準量とその2倍にあたる量を比較すること
を通して、基準量の1.5倍の意味を理解
できるようにすることが大切です。その上で、
基準量の大きさを変えて同様の活動を行い、
例えば、基準量の1.5倍に当たる量は、基準
量を1と見たときに1.5に当たる量であることを
捉え、割合についての理解を深めることが
できるようにすることが大切です。

令和8年度全国学力・
学習状況調査報告書

報告書

小学校 算数





組織で支える「絆づくり」と「居場所づくり」 一人ひとりを大切にするために

西部教育局
お役立ち情報
令和8年10月号

学級経営のエキスパート教員である川田教諭に、特別支援学級での実践をお聞きました。その一部を御紹介します。



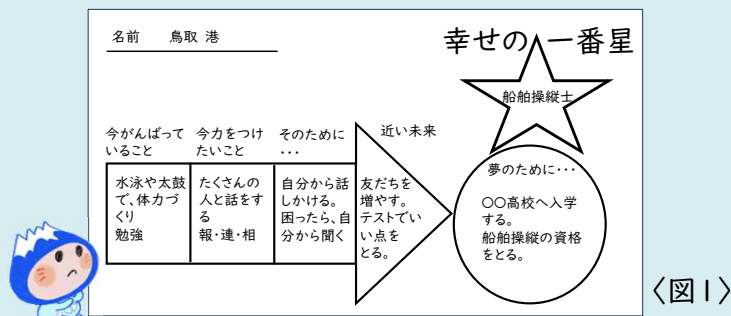
【参考】
特別支援教育
まなびの広場



一人ひとりの自己実現に向けて

特別支援学級だからこそ、一人ひとりの子どもの細かい実態把握を行い、将来像（進学先等）を思い描けるようにしています。どんな学校へ進学していくのか、将来どんな資格が取りたいのか、そのために、小学校段階でどのような力をつける必要があるのか、**自己理解（自分の良いところや課題）をもとに、子どもたちがイメージをもてるように**します。〈図1〉

そして、そこから、**今がんばることは何か**、今月の目標を立てます。毎日挑戦し、出来た日はカレンダーに花丸をかくていきます。〈図2〉学級の一人ひとりが、自分の立てた目標に向かって取り組むことで、「みんながやるからがんばれる」という**一体感**も生まれます。花丸がたまったら楽しいことをするという**期待感**をもちながら、**楽しく取り組めるように**します。毎月お楽しみを設定するのは時間的に難しいこともありますが、そんな時は、内容が簡単なものを選ぶなどしながら、**子どもたちとの約束は守るよう**にしています。また、**達成できなかったときは、どうしたら花丸になるのかを子どもと一緒に考え**、月末には、カレンダーが花丸で埋まるようにしています。



〈図1〉



〈図2〉

自分の良さががんばり、得意を披露できる場の設定

朝の会で、日直が「今日のおしゃべりコーナー」で話をする場を設定しています。みんなで聞いて、みんなで質問をしています。テーマは自由になっていますが、話すことが決まらない子には、お題をくじて引き、出たテーマで話してもらうこともあります。学級の友だちから質問やアクションをもらうことで、**自分に関心をもってもらえていると感じ、自己肯定感が高まったり、友達の新たな一面を知ることで、相互理解が深まったり**すると考えています。学級全員が参加しているので、**温かい雰囲気**になります。タイミングとしては、4月にすぐに始めるのではなく、**少しずつ話す経験を積み、抵抗がなくなってきたと感じてから自然と始めるように**しています。



帰りの会では、「きょうのキラリ!」として、良いことを見つけをして、教室に掲示しています。子どもたちにとって、**自分を見てくれていた人がいると感じられる場**になっており、**学級の一員としての安心感や自分の行動への自信**にもつながっています。また、**ポジティブな視点で終えることで、一日を前向きな気持ちで締めくくり、明日への登校意欲や安心感につなげることが**できます。

発表の際は、担任も発表することで、子どもたちに**新たな視点を与えられるように**したり、「〇〇先生が言っていたよ」という形で、他の先生が見つけたその子の良いところを紹介したりすることもあります。目立つ子だけでなく、**控えめな子にも光が当たり、みんなに声がかかるように**しています。



学級の絆づくりと居場所づくり

学年の違う子どもたちが集まっている学級なので、**あえて機会を設定しないと関わる時間は少なくなりがち**です。一緒に生き物を育てたり、野菜作りをしたり、工作や調理などを経験したりしていく中で、**コミュニケーションの機会が増え、お互いのことを知るきっかけ**になります。また、上の学年の児童にとっては**役立ち感が感じられる場**となり、下の学年の児童にとっては**上の学年の児童の存在が強い安心感を与えたり、モデルになったり**しています。





特別支援教育ほっと通信



令和9年度教科書需要数報告事前審査会（以下、事前審査会という）から見てきたこと

令和8年10月
西部教育局

西部地区の小・中・義務教育学校に在籍する子どもたちが、次年度使用を予定している教科書について、冊数や種類等を確認する上記の会を令和8年8月20日（木）に開催しました。特別支援学級の場合において、「継続していただきたい事例」や「見直しが必要な事例」についてご紹介します。

【継続していただきたい事例】

◎次年度の教育課程を検討した上で、教科書が選定されていた。

→長期的な視点で子どもたちの姿をイメージすることにもつながります。

◎各学校において、在籍児童一人一人の教科書給与リストが丁寧に作成されていた。

○「次年度使用予定の教科書」、「今年度使用している教科書」、「以前使用していた教科書」の3年間のまとまりで、見やすい様式に工夫されていた。

○以前給与された教科書を使う場合、「（給与済み）」と記入されていた。

→このようにまとめてあると、二重給与、過給与の防止だけでなく、次年度の教育課程を検討する上でも参考になります。

【参考】

令和8年6月ほっと通信
「次年度使用する
教科用図書について」



通常学級から特別支援学級に措置変更した場合、学びの履歴を明確にするためにも、1年生まで遡ってリストが作成されることが望ましいです。

【見直しが必要な事例】

▲教育課程の組み方と教科書給与リストが合わないと思われるケースがあった。

△知的障がい学級に在籍の間、毎年、当該学年の教科書を選定し、使用することになっている。

△知的障がい学級に在籍し、国語と算数は一般図書を選定しているが、その他は当該学年の教科書となっている。

→学びの場や、学ぶ内容について、児童・生徒の実態をしっかりと把握することが重要です。

そして、実態に合わせた教育課程を編成した上で、子どもの力を最大限に伸ばすために効果的な教科書を選定しましょう。

今年度末までお願いしたいこと

子どもたち一人一人の実態に応じた次年度の教育課程の編成及び最終確認は、担任や特別支援教育主任等が中心となり、3月末までにお願いします。その教育課程に基づいた教科書の納入指示をお願いします。
（納入指示後に教育課程を変更しないこと）

子どもの学びの状況によっては、8月時点に想定していた教育課程を変更し、教科書を再選定されるケースがあると思います。その場合は、必ず所管の市町村教育委員会に報告するとともに、事前審査会に提出された教科書給与リストも修正・提出してください。

